

CUC Summer Program 2025

本学学生の声

1. 2025summer program report 国際教養学部 岡田 さくら……p.3
2. サマープログラムで掴んだ成長 商経学部 柿崎 円花……p.5
3. CUC Summer Program 2025 参加報告 人間社会学部 上里 未来……p.7
4. CUC Summer Program 2025 参加レポート 商経学部 荒井 知哉……p.9

【プログラム概要】

日程:2025年7月28日~8月7日(11日間)

海外参加校(全12校)

大学名	国
ネブラスカ大学オマハ校	アメリカ
COMAS(経営大学)	イスラエル
サー・パダンパット・シンハニア大学	インド
全南国立大学校	韓国
漢陽大学校	韓国
パンヤピワット経営大学	タイ
国立台北商業大学	台湾
楽山師範学院	中国
上海立信会計金融学院	中国
ローゼンハイム応用科学大学	ドイツ
MCAST	マルタ
グアナフアト大学	メキシコ

参加人数:海外学生 26名 CUC 学生:31名

スケジュール

	Noon		Afternoon	
7/28			15:00~ 17:00~18:00	Check-in Orientation 1[iSquare]
7/29	10:00~11:30 12:00	Orientation 2[Building 1:1212] Welcome Party[Main building 7th floor]	13:30~17:00	Activity1 CUC Student Program[Gymnasium 2nd floor]
7/30	9:30~11:00 11:10~12:40 12:40	Lecture[Building 1:1211] Lecture1 Lecture2 Lunch	13:30~17:00	Activity2 Yukata experience [HUB 3nd floor and iSquare]
7/31	9:30~11:00 11:10~12:40 12:40	Lecture[Building 1:1208 or 1211] Lecture3 Lecture4 Lunch		Free
8/1	9:00~18:00	Activity3 Bus tour(Visit to Ezawa Fruitland)		
8/2		Free		
8/3		Free		
8/4	9:30~11:00 11:10~12:40 12:40	Lecture[Building 1:1211] Lecture5 Lecture6 Lunch	13:30~18:00	Activity4 Visit Asakusa
8/5	9:30~11:00 11:10~12:40 12:40	Lecture[Building 1:1208 or 1211] Lecture7 Lecture8 Lunch	13:30~16:00	Presentation Preparation
8/6	10:00~11:00 11:00~13:00	Presentation Preparation [Building 1:1101] Group Presentation[Building 1:1101]	13:30~15:00	Farewell party[Main building 7th floor]
8/7	~10:00	Check out[iSquare]		

2025summer program report

Chiba university of commers

Sakura Okada

私はサマープログラムに昨年に続き2度目の参加となり、去年の経験を生かしてより積極的に参加しようという気持ちで臨みました。今回のプログラムでは、昨年よりも多くの国からの参加者が集まり、特に初めて会う学生と話す機会があり良かったです。それぞれの国の文化、価値観、日常生活について話す中で、自分の視野が広がっていくのを実感しました。

中でも印象的だったのは、最終日のプレゼンテーションです。参加した各国の学生が、自国の文化について紹介を聞いて、日本にいただけでは得られないようなリアルな意見や視点を知ることができました。自分たちにとっては当たり前の行動でも、他国の人にとっては違和感や驚きがあることに気づかされ、日本を外から見つめ直す良い機会となりました。そしていくつかの国の人たちと共同でプレゼンをしたり講義内でのディスカッションは、なかなかできることではないと思うので、これからの学生生活や社会に出たときに役に立つ経験であると感じました。

しかしながら、このプログラムは私にとって悔しさも残る経験止まりました。去年の参加時に比べて、私は短期留学を経験し、英語に対する抵抗感も減ってきたと感じていました。そのため、今年ももっと積極的に話しかけたり、ディスカッションでも自分の意見を伝えたりできたりすると思っていたのですが、実際はうまく行かないことも多くありました。特に即時に英語で反応しなくてはいけない場面では、言いたいことが頭にあっても、適切な言葉に変換できずに沈黙してしまうことがあり、自分の未熟さを通感しました。

一方で、去年よりも聞き取る力がついていると感じています。相手の話す英語を理解できることが増え、相槌や簡単な質問をすることはできるようになってきました。ですが、自分から積極的に話題を添加したり、自分の意見を英語で論理的に伝えたりすることはまだまだ難しいと感じます。特に、「自信をもって英語で話す」ことの難しさを改めて実感しました。間違えることの不安や、言い沈んでしまうことへの恥ずかしさが、私の積極性を妨げていたのかもしれない。

この経験を通して、自分の課題がより明確になりました。それは英語力の向上だけでなく、自信をもってコミュニケーションをとる力を身に着けることです。今後は日常的に英語に触れる時間を増やすだけでなく、自分の考えを英語で制限する練習を意識的に行っていきたいと考えています。例えば、英語の日記をつける、オンラインで海外の人と会話する名地、小さなことから始めていきたいです。

また文化的な違いに対してもっと敏感になりたいとも感じました。今回他国の学生との会話を通じて相手の文化を理解する姿勢の大切さを学びました。異なる価値観を受け入れることは簡単ではありませんが、その第一歩としては相手に興味を持つこと、違いを楽しむことから始めたいと思います。

このサマープログラムでは、英語学習や異文化理解だけでなく、自分の弱点や成長の余地を明確にする貴重な機会でした。来年もこのプログラムに参加する機会があれば、今年の実験を生かしつつ、もっと積極的に行動できるよう努力を続けたいと思います。



サマープログラムで掴んだ成長

千葉商科大学 経済学科三年 柿崎円花

初日、成田空港で海外学生と合流し、簡単なコミュニケーションを行ったとき、昨年よりも自然に会話ができている自分を感じた。特にドイツからやってきた学生が12時間もの長時間をかけて来日したことを聞き、その行動力に大きな驚きを覚えた。もしサマプロのような国際交流の場に参加していなければ、この出会いはなかったかもしれないと思うと、改めて貴重な機会であると実感した。また、交流を通して日本文化の中でも日本人でさえ知らないマナーや習慣を学ぶことがあり、それを海外学生に説明できる人間になりたいと考えるようになった。他国の経済状況や日常的な習慣を知るには、やはりこうした場が不可欠であり、グループディスカッションの重要性を改めて感じた次第である。

さらに今年は、CUC 学生企画が大きな特色となった。事前オリエンテーションにおいて、出し物の内容からルール、準備する材料に至るまで、学生自身が主体的に企画を進めるものであった。私は昨年リーダー陣に大いに世話になった経験から、今年は副リーダーとして活動する機会を得た。特に学生企画では、現実的に実施可能であるか、安全面は確保されているかといった多方向からの視点を持ち、行動することを心掛けた。その過程で周囲と協力しつつ問題を解決していく経験は、責任感や判断力を磨く貴重な機会であり、自分自身の成長につながったと考える。リーダー、副リーダーを中心に夜遅くまで準備を重ねた結果、海外学生に楽しんでもらうことができ、参加者全体の団結力が高まったことは今年ならではの大きな成果である。

また、今年のサマプロでは各国の挨拶を学ぶことができたことも印象的であった。海外学生の母国語の挨拶を覚えて発音すると、相手がとても喜んでくれ、その反応にこちらも嬉しくなった。反対に、海外学生が日本語を学ぼうとする姿勢を見たとき、言語を学ぶこと自体が多文化共生理解の一步であると強く感じた。言語を通じて相手の文化に歩み寄り、その大切さを身をもって理解できた点は、昨年以上に大きな学びであったといえる。さらに今回のサマプロを通して、自分にできることとできないことがより明確になった。英語での会話においても、理解できる部分と伝えきれない部分がはっきりとしたため、今後の課題を自覚することができた。この「課題の可視化」は自己成長につながり、将来的には就職活動においても大きく役立つと考えている。自分がどのような点を改善すべきかを把握できたことは、昨年には得られなかった重要な気づきである。

総じて今年のサマプロは、昨年とは異なる経験や考え方を受け取り、より深い学びを得ることができた貴重な機会であった。多様な国の学生との交流を通じて文化的背景や価値観の違いを理解すると同時に、副リーダーとしての責任を果たす中で、組織の中での役割意識やリーダーシップのあり方を学ぶことができた。このような経験を支えてくださった国際課の方々、協力いただいたボランティアの方々、そしてリーダー陣に深く感謝申し上げたい。

来年は私にとって最後のサマプロ参加となる。これまで以上に確かな言語能力を身につけ、パッションだけではなく実力としての成長を証明したいと考えている。今年得た学びを糧に、さらに努力を重ね、来年の自分をより誇れる存在にしていきたい。



CUC Summer Program 2025 参加報告

人間社会学部

25b0108 上里未来

「CUC Summer Program 2025」に参加しました。このプログラムでは、英語での講義やディスカッション、浅草観光、スポーツ大会、浴衣体験など、多彩な活動を通して異文化交流を深めることができました。宿泊は大学の宿舎で、海外の参加者と生活を共にし、日常の中でも自然に交流が生まれる環境でした。

私はもともと英語が苦手で、参加前は「海外の人と英語で会話できるのだろうか」という不安を抱いていました。実際に話してみても、返答が遅れたり、簡単な質問でも聞き返してしまったりすることが多く、情けなさを感じました。それでも、日々英語を使い続けるうちに、少しずつ耳が慣れ、簡単な会話なら自分から話せるようになりました。最終日には、初日と比べて自分の語学力が確実に向上していると実感でき、達成感と自信を得ることができました。文法や発音が完璧でなくても、ジェスチャーや表情、簡単な単語を組み合わせることで気持ちを伝えることができると知ったことは、今後の語学学習への大きな励みになりました。

また、私はサークルや委員会に所属しておらず、アイスクエアにも行ったことがなかったため、知り合いがいまませんでした。そんな状態での参加に大きな不安がありました。しかし、皆さんがとても優しく接してくれたおかげで、多くの大切な友人ができ、楽しく過ごすことができました。

講義の後や休日には、毎日のように参加者同士で遊びに行きました。普段の私は自分から遊びに誘ったり、頻繁に外出したりするタイプではありませんが、このプログラム期間中は自然に声をかけ合い、誰かと一緒に行動することが当たり前になっていました。そのおかげで、毎日が新鮮で、充実感にあふれていました。今回の経験を通して、今後はアイスクエアにも行きやすくなり、さらに英語を向上させたいという意欲が高まりました。

また、このプログラムでは英語だけでなく、普段あまり使う機会のないタイ語や韓国語を話す場面もありました。特に韓国語は、自分が思っていたよりも会話ができて嬉しく、それが自信にもつながりました。一方、タイ語は発音がとても難しく、同じ単語を何度も繰り返さないで正しく伝わらないことが多くありました。それでも、今私が最も興味を持っており、話せるようになりたい言語がタイ語です。今回の経験をきっかけに、今後はタイ語の学習にも本格的に取り組み、よりスムーズに会話ができるようになりたいと考えています。そして実際に感じたのは、韓国語やタイ語など、その人の母国語を少しでも話すことができれば、一気に距離が縮まり、より深い関係を築ききっかけになるということです。これは英語と



はまた違った魅力であり、異文化交流の大きな力だと感じました。

今回の 11 日間は、私にとって語学力の向上だけでなく、人とのつながりの大切さや、新しい環境に飛び込む勇気の大切さを教えてくれました。最初の不安や緊張を乗り越え、多くの仲間と過ごした時間は、これからの大学生活における自信と原動力になります。これからも今回の経験を活かし、語学の勉強を続けながら、異文化交流の機会を積極的に探していきたいと思えます。

CUC Summer Program 2025、本当にあっという間で、毎日が充実していました。最初は「自分の英語が通じるのかな…」と不安でいっぱいでしたが、始まってしまえばそんな心配をしている暇もないくらい、次々と新しいことに挑戦する日々でした。



一日目は特に緊張していて、自己紹介のときに英語が全然出てこず、笑ってごまかしてしまったのを覚えています。周りの人たちは流暢に話していて、自分との差に少し落ち込みました。でも、その後のアクティビティやペアワークを通して、完璧な文法でなくても「相手に伝えよう」とする気持ちがあれば会話は成り立つとわかりました。二日目以降は、相手の表情やジェスチャーから意味を推測したり、自分も身振り手振りを交えて話すようになり、会話が少しずつスムーズになっていきました。

特に思い出に残っているのは、グループワークでの出来事です。テーマに沿ってプレゼンを作る課題があり、意見をまとめるのが大変でしたが、メンバーがそれぞれ得意分野を活かしてくれました。私は資料作りを担当しましたが、英語で説明を入れるのに苦戦し、何度もみんなに質問しました。すると、メンバーは嫌な顔をせず、例文を教えてくれたり、分かりやすい言い回しを提案してくれたりしました。その優しさと協力的な雰囲気がとても嬉しかったです。

異文化理解の面では、本当にたくさんの発見がありました。例えば、食事の時間や挨拶の仕方、会話のときの距離感、冗談のツボなど、細かい部分まで国によって全然違います。その違いを知るたびに「こんな文化もあるんだ！」とワクワクしました。そして、自分の当たり前が相手の当たり前ではないことを何度も実感しました。

学びとして大きかったのは、英語を“正しく”話そうとするより“相手に伝わる”話し方を意識するようになったことです。例え文法が少し間違っているとしても、相手にとってわかりやすい単語や順序で話せば十分に通じることがわかりました。また、相手の話を聞くとともに、ただ頷くのではなく「それってつまりこういうこと？」と確認することで、お互いの理解が深まりました。

このプログラムで出会った人たちは、自分と同じくらいの年齢なのに、海外留学や国際的な活動、ボランティアなど、たくさんの経験をしていて、とても刺激を受けました。「もっともっと国際交流をしていきたい」と強く思うようになり、自分の世界を広げたいという気持ちが今まで以上に高まりました。

今後は、大学内外での国際交流イベントや留学生サポートなどに積極的に参加していく予定です。今回の経験をきっかけに、英語だけでなく他の言語にも挑戦してみたいと思っています。そして、今回のプログラムで学んだ“伝える力”と“聞く力”を活かして、将来は異文化をつなぐ役割を担える人になりたいです。

最後に、このプログラムを支えてくださった先生方やスタッフの皆さん、一緒に時間を過ごした仲間たちに心から感謝します。この経験は、一生の宝物です。またみんなと会える日を楽しみにしています！